

機械器具 56 採血又は輸血用器具
管理医療機器 輸血セット (JMDNコード：38569000)

テルフュージョン血小板輸血セット

再使用禁止

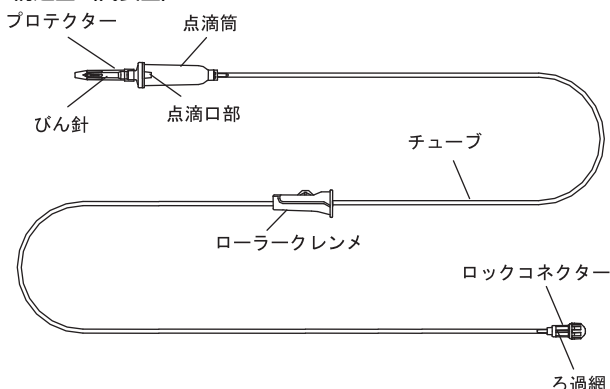
【禁忌・禁止】

<使用方法>

再使用禁止、再滅菌禁止

**【形状・構造及び原理等】

<構造図 (代表図)>



** 血液・体液に接触する部分の原材料一覧

部品名	原材料
びん針	ポリプロピレン (PP)
点滴筒	PP
チューブ	ポリ塩化ビニル (可塑剤：トリメリット酸トリ (2-エチルヘキシル))
ロックコネクター (ろ過網を含む)	PP、ポリエチレンテレフタレート
潤滑剤	シリコーン油

<原理>

- ** 本品は、患者に穿刺する静脈針等をロックコネクターに接続し、びん針を血液製剤容器へ穿刺することによって輸血ルートを確認し、血小板を輸注することができる。また、時間当たりの流量を規定する点滴口サイズは20滴/mLで、重力（自然落下）により血小板を供給することが可能な輸血セットである。

【使用目的又は効果】

<使用目的>

本品は血小板を輸血する器具であって、そのまま直ちに使用でき、かつ1回限りで使い捨てるものである。

**【使用方法等】

1. 汚染に十分注意し、本品を包装から取り出す。
2. 必要に応じて、延長チューブ、三方活栓、静脈針等と確実に接続し、使用する。
3. 血液製剤容器がエア針を必要とする場合は、エア針を用意する。
4. 血液製剤容器の排出口を上にして、エア針のプロテクターを外し、ゴム栓の○印箇所により、まっすぐいっばいの深さまで刺し、血液製剤容器内を平圧にする。
5. ローラークレンメを完全に閉じてから、びん針のプロテクターを外す。
6. 血液製剤容器をスタンドにつす前に、内容物を静かに混和させ

た血液製剤容器の排出口を上にして、びん針を少しひねりながらまっすぐ前進させ、いっばいの深さまで刺通する。

7. 本品を連結した血液製剤容器をスタンドにつす後、点滴筒を指でゆっくり押しつぶして離し、点滴筒の半分程度まで血液製剤をためる。
8. ローラークレンメを徐々に緩めて静脈針等の針先まで血液製剤を導いてから、ローラークレンメを再び確実に閉じる。
9. 静脈針等が確実に接続されていることを確認してから、静脈針等のプロテクターをまっすぐ引いて外し、穿刺部位を消毒した後、血管に穿刺して固定する。
10. ローラークレンメを徐々に緩め、点滴を観察しながら速度を調節し、輸血を行う。
11. 輸血が終了したら、静脈針等を抜去後、止血する。

点滴量

・1mL≒20滴

** 個包装の点滴量表示を参照

一滴あたりの容積が薬剤によって異なる可能性がある。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. あらかじめ接続部に緩みがないことを確認してから使用すること。
2. 輸血開始時には、輸血状態（点滴の落下状態、点滴筒内の液面の高さ、血液製剤の減り具合）や穿刺部位を必ず確認すること。また、輸血中にも、巡回時等定期的に同様の確認をすること。
3. 本品が身体の下等に挟まれないように注意すること。[チューブの折れ、閉塞、部品の破損等が生じる可能性がある。]
4. 本品に衝撃を与えないこと。[破損する可能性がある。]
5. 注入の際は、200kPaを超えた圧力をかけないこと。[過剰圧によって本品が破損する可能性がある。]
6. びん針又はエア針を使用する場合は、以下の事項を順守すること。
 - (1) プロテクターを外すとき、びん針の先端部がプロテクターに触れないように注意すること。[先端部が変形し、切れ味が悪くなる可能性がある。]
 - (2) 血液製剤容器のゴム栓の同一箇所に繰り返し刺し通さないこと。[刺通部位がくり抜かれ、針管内に詰まりが生じる、又はセット内に混入する可能性がある。]
 - (3) 血液製剤容器に刺通する際は、根本まで確実に刺通すること。[刺通が浅いと血液製剤が漏れる可能性がある。]
 - (4) 血液製剤容器のゴム栓に対し斜めに刺したり、刺通中に横方向の力を加えないこと。[びん針に曲がりや破損が生じる可能性がある。]
 - (5) 血液製剤容器に刺通する際は、血液製剤容器の壁面に針先が接触しないようにすること。[血液製剤容器が液漏れする、又は容器が割れ異物が発生する可能性がある。]
 - (6) 輸血セット、連結管のびん針に空気を巻き込まない距離を確保すること。
7. 点滴筒を使用する場合は、以下の事項を順守すること。
 - (1) 点滴筒内の液面低下に注意すること。[チューブ内に空気が混入する可能性がある。]
 - (2) プライミング後、点滴筒を横にしたり、傾けないこと。また、血液製剤等の容器を刺し替える際、及び輸血中は点滴筒内を空にしないこと。[チューブ内に空気が混入し、血液製剤等が流れ

にくくなる可能性がある。]

- (3) プライミング後、又は血液製剤容器を交換する際は、点滴筒を傾けるなど、点滴筒内の点滴口部を血液製剤等に浸漬しないこと。[血液製剤等により点滴口部表面が親水化され、血液製剤等が点滴筒内壁面を伝って流れたり、一滴あたりの容積が大きくなる可能性がある。]
8. 静脈針を使用する場合は、静脈針のプロテクターを外すとき、先端部がプロテクターに触れないよう注意すること。[先端部が変形し、切れ味が悪くなる可能性がある。]
9. チューブが折り曲げられたり、引っ張られた状態で使用しないこと。
10. ローラークレンメを開く際は、ローラーに過度な力を加えないこと。[ローラーが外れるなど、流量が調節できなくなる可能性がある。]
11. ローラークレンメで流量を調節、又は閉じた後に、チューブを引っ張る、又は患者の身体の下に挟まれるなど、ローラークレンメが動くような過度な負荷をかけないこと。[流量が変化する、又はフリーフローとなる可能性がある。]
12. コネクターを使用する場合は、以下の事項を順守すること。
 - (1) 他の医療機器と接続する場合は、過度な締め付けをしないこと。[コネクターが外れなくなる、又はコネクターが破損する可能性がある。]
 - (2) テーパー部分に血液製剤又は薬液を付着させないこと。[接続部の緩み等が生じる可能性がある。]
13. 針部に直接手を触れないこと。[針刺し、感染の可能性がある。]

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

1. 本品をポンプに装着して使用しないこと。[本品が破損する可能性がある。]
2. プライミング後は直ちに血液製剤を投与すること。[血液製剤が汚染される可能性がある。]
3. 輸血中、定期的にろ過網の詰まりの発生に注意すること。詰まりが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。[血液製剤の凝集塊等により詰まりを生じる可能性がある。]
4. 使用中は本品の破損、接続部の緩み、血液製剤及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。
5. チューブを鉗子等でつまんで傷をつけないように、また、注射針の先端、はさみ等の刃物、その他鋭利物等で傷をつけないように注意すること。[チューブに液漏れ、空気の混入、破断が生じる可能性がある。]
6. チューブ及びチューブと接合している箇所は、過度に引っ張るような負荷やチューブを押し込むような負荷、チューブを折り曲げるような負荷を加えないこと。[チューブが破損する、又は接合部が外れる可能性がある。]
7. 血管造影剤等の高圧注入には使用しないこと。[液漏れ又は破損する可能性がある。]
8. チューブと硬質部材（コネクター等）との接合部付近でローラークレンメを操作しないこと。[チューブがクレンメに噛み込まれ、破損する可能性がある。]
9. リキャップする必要がある場合は、針刺しを防止するため、保護具等を使用するか、プロテクターを手で持たずに台等に置いて、プロテクターをまっすぐに被せること。[プロテクターを傾けて被せると、びん針がプロテクターを突き抜ける可能性がある。]
10. ロックコネクターとポリ塩化ビニル製のメスコネクターを接続する場合は注意すること。[外れなくなる可能性がある。]
11. 点滴筒が白色に曇った状態になることがあるが、点滴筒の素材であるポリプロピレンの特性に起因する現象であり、性能、安全性

に問題はない。

12. 保管条件によって、チューブ等が変色する場合があるが、性能、安全性に問題はない。

【保管方法及び有効期間等】

<保管方法>

水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

<有効期間>

使用期限は外箱に記載（自己認証による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社

電 話 番 号：0120-12-8195 テルモ・コールセンター

